

ハングルはなぜ誕生したのか

1.はじめに

「韓国と北朝鮮の言葉は、中国の漢字由来の言葉を数多く含んでいるが、日本語とは違い漢字をほとんど使わずにハングルで表記される」と高校で使用している教科書(『新詳地理B』帝国書院)に記されている。野間秀樹氏の研究を元に、なぜ朝鮮半島の人々は漢字を使わず、ハングルを使用しているのかを述べていきたい。

2.ハングルとは

ハングルとは15世紀に朝鮮半島で生まれた文字体系の名称で、世宗王が集賢殿という研究機関と共に「訓民正音」という書物の形で公布された。「ハングル」という名称は周時経(1876～1914)が「ハン」=「偉大なる」、「クル」=「文字」から名づけたものと言われている。

ハングルはローマ字のようなアルファベット式の文字で、「ㅍ」(ピウプ)はpと「ㅏ」はa「ㅓ」はmを表すというように一つの字母が一つの音を表すのである。それらの字母を「ㅏㅓㅓ」pamとしこれを一文字として扱う、ハングルは内部構造が常に文字の上で視覚的に透けているのでㅏを見て、この音節はp+a+mという音から構成されているということがわかる。

3.ハングル誕生の背景

朝鮮半島では元々、固有半島語である「カラ語」だけが通用していた。しかし1世紀頃、中国語(漢字語)が大挙流入し、現在の韓国語が形成されたと推測されている。そのためハングルができる前の朝鮮では言語体型が異なる中国の漢文が使われていた。

しかし、漢字や漢文は知識層の所有物で学校に通うことのできない多くの一般庶民は文字を書くことも読むこともできなかった。また、朝鮮の言葉は中国語と異なるが漢字を表現の手段として使用しているために不便に感じる点が多かった。そのため朝鮮王朝第四代の王、世宗王は誰もが使いやすい朝鮮の言葉に合った新しい文字を作る必要があると考え、集賢殿という研究機関に優秀な人材を集めてハングル創制の研究をさせた。

ハングルは1443年に完成し、1446年10月9日に「民衆を訓える正しい音」という意味を持つ「訓民正音」として公布された。ハングルの創制は、表記の難しい漢字による文字生活から脱するきっかけとなり世宗は「訓民正音」や釈迦の一代記をハングルで記した「釈譜詳説」を刊行するなどハングルの普及に力を注いだ。しかし東アジアの社会では漢文が「国際共通語」となっており、ハングルは支配層に認められず女や僧が使う文字だとして「アムクル」などと呼ばれていた。支配層がハングルを公文書に用いたのは1894年以降でハングル創制から450年後のことであった。1948年10月9日に韓国はハングル専用法を制定し、法律用語の漢字表記禁止などの政策が続いたことにより公の場から漢字が姿を消していったのである。

4.おわりに

ハングルは「民衆に文字を普及させるため」「朝鮮の言葉を明確に表現するため」という2つの理由から誕生したことが明らかになった。今後は韓国の言語文化と日本の関係についてより深く学んでいきたい。

○参考文献

- 野間秀樹『ハングルの誕生』平凡社、2021年
- 水野俊平、李景珉『韓国の歴史』河合出書房新社、2021年
- 金容雲『日本語の正体 倭の大王は百濟語で話す』三五館、2009年
- 石川九楊『漢字とアジア』ちくま文庫、2018年
- 金両基著『ハングルの世界』中公新書、1984年